



アドリアティック・カレッジの同級生と

高校時代のあの生々しいぐらいの原体験が、私の中に強く根付いている。多くの学生が同様の体験ができれば、世界は変わると思う。そして、日本は強さを取り戻せると思う。そのためには微力ながらできる限りのサポートをしていきたいと思う。

夢だ。世界はこれから一〇年、さらに大きく変化すると思う。世の中に変化がある時代に、私たちのようなベンチャー企業にはチャンスがある。変化を先読みしながら、今まで存在しなかった事業を立ち上げ、世界中で商売をし、当社を世界企業へと昇華させていきたい。それが私の夢だ。

🌟 起業体験を通じて

私は大学四年のときから、企業の立ち上げに関与してきた。当社は、私が立ち上げ

夜な夜な語り合う。いつしか、こういう語り合いが日課のようになっていた。自らをさらけ出すことができれば、国や文化の違いを超え、人間同士で腹を割った関係ができる。世界中のどこに行っても、そう生きることができると。そういつた確信もいたものを勝手に得て、二年間の生活を終えて帰国した。

た二つ目の企業だ。社員の持つさまざまな価値観を許容しながら、組織を一つに束ねて、一つの目標に向かって一丸となって邁進する。事業の立ち上げには、さまざまな苦難も伴うが、リスクを取りながらチャレンジし、高い目標に到達した時には、何にも代え難い喜びがある。

世界はこれから一〇年、さらに大きく変化すると思う。世の中に変化がある時代に、私たちのようなベンチャー企業にはチャンスがある。変化を先読みしながら、今まで存在しなかった事業を立ち上げ、世界中で商売をし、当社を世界企業へと昇華させていきたい。それが私の夢だ。

経済広報

5 月号

定価 315円 (税込)

財団法人 経済広報センター

TEL: 03-3201-1412

FAX: 03-3201-1404

E-mail: keizaikoho@kcc.or.jp

特集
CSRと広報

コーポレートブランドとCSR 伊藤邦雄 一橋大学大学院 商学研究科 教授
2004年度版は「CSR」「社会・環境」との名称が増加～CSRレポート展を開催～
CSRレポートを通じた社会とのコミュニケーション
～事例研究・富士写真フイルム、日産、リコー～
CSRレポートを読むポイント 後藤敏彦 環境監査研究会・NSC 代表幹事

業界団体の
広報課題を聞く

北川理一郎
日本電機工業会 企画部長

アングル

大沢 賢
東京新聞 論説委員

自らをさらけ出すことが

できれば

ネットプライス社長兼CEO

佐藤輝英

さとう てるひで

一九九一〜九三年UWCアドリアティック・カレッジ(イタリア)留学。
九七年慶應義塾大学総合政策学部卒。ソフトバンク入社、サイバーキヤ
ッシュ(現ペリトランス)出向。二〇〇〇年ギガフロップス取締役就任。
ネットプライス社長兼CEO就任(現任)。〇五年クーコム取締役就任(現
任)。日本経団連入会。



世界を飛び交うインターネット

いつも通りに深夜までオフィスで仕事を
していると、ポーン!と一通のメールが届
く。英語の件名でしかも添付ファイルまで
付いているので、一瞬、新手的ウィルスか
と思うと、それはUWC時代の悪友からの
ジョークメールだった(笑)。一人にやにや
しながら、返事を書く。

今、私は、インターネットで商品やサー
ビスを販売する企業「株式会社ネットプラ
イス」を経営している。社員は総勢一七〇
人。創業は今から五年前。この五年間、素

晴らしい出会いに恵まれ、時の運にも後押
しされ、昨年東証マザーズに上場し、上場
企業の仲間入りをすることができた。

UWC滞在時に学んだこと。それは、「自
ら発信すること」と、「さまざまな価値観
を許容すること」の大切さだと思う。

目の前に輝くアドリア海

一九九一年の夏。私はイタリア北部の
Dunoという小さな村に到着した。さんさ
んと輝くアドリア海の断崖に立つ寮にて、
身支度を終え、ティールームに出ると、そ
こは、小さく凝縮された国際国家があるよ

●(社)ユニテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日
本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちと
の教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養
成するという理念を掲げるUWCの日本委員会とし
て、毎年一〇名前後の高校二年生を世界各地にある
UWC傘下の高校に派遣し、すでに三三八名の卒業
生を輩出している。

うだった。イタリア人はもとより、エジプ
ト人、チェコ人、クロアチア人、パラグア
イ人、ウガンダ人、南アフリカ人……耳に
するのもはじめての国も多く、強烈なイン
パクトを受けた。お互い自己紹介をすると、
発音が難しく覚えられない名前が多く、一
つ一つカタカナでメモを取ったことを記憶
している。カルチャーショックどころか、
これはえらいところに来てしまったなとい
う感じだった。

自らをリセットし、 自ら発信すること

私はこういう人間である、自ら発信し
ないと誰も振り向いてくれない。文化背景
が全く違うので、自ら歩み寄っていかないと
誰も近づいてきてはくれない。そう腹を
括って、自分をさらけ出して、思い切って
歩み寄るまでにしばらくの時間を要した。

二年目に入ると大分慣れてきた。仲間と
ジョークを言い合い、将来についての夢を